

富山県版「SOSの出し方に関する教育」プログラム

1 プログラムの目的



本プログラムは、児童生徒が危機的状況に対処するために、信頼できる大人へSOSが出せるようになることを目的としています。

自分の「こころのサイン」に気付き、困った時に相談することは「弱さ」ではなく、適切な対処であると理解するとともに、具体的な相談先を知り活用できる力を育みます。

「困ったと言える学校文化」をつくり、児童生徒の安全・安心を支えます。

※文部科学省の通知では各学校で年間1単位時間以上の実施が求められています。

2 本プログラムの特徴

1

教員研修資料と授業例をセットで提供

すべての教員が担い手となり、学校全体で危機的状況にある児童生徒への対応力を高めます。

2

教員とSCのチーム・ティーチング

SCがすべての児童生徒を対象とした課題未然防止教育に積極的に参画します。

3

学校の実態に応じて実施可能

「生命尊重に関する教育」等と連動させ、教育課程の中に柔軟に位置付けて実施します。

3 対象



小学校高学年
中学校
高等学校
特別支援学校

*指導案A～Eは45分または50分の設定。校種や実態に応じて適宜調整が可能。

*指導案A～Eを、SCが独自に実践してきた取組等と組み合わせ、発達段階や実態に応じた調整が可能。

※特別支援学校は要請支援で対応します。

4 学校での実施イメージ



1 教職員研修

「SOSの出し方に関する教育」の必要性を学校全体で共有
「チーム学校」が一体となって推進

2 授業 (T・T)

教員とSCが児童生徒の様子を共に観察し、支援についての具体的な視点を共有
学活・道徳・保健等で展開 (年間1～2時間程度)

3 フォローアップ

事後アンケートにより効果を検証
早期相談・早期支援へ接続
学校評価と連動した点検と改善

5 期待できる成果



早期発見・早期支援

早期相談につながりやすくなり、問題の深刻化を防ぐことができます。



リスク低減

不登校・孤立・いじめのリスクを減らし、未然防止が期待できます。



心理的安全性の向上

意見表明や挑戦がしやすい学級風土をつくり、安心感を育みます。



教員・SCの連携強化

多面的な児童生徒理解につながり、協働の文化が育まれます。



富山県教育委員会
教育みらい室 児童生徒支援担当

お問い合わせ

TEL : 076-444-3452

E-mail : ashochugakko@pref.toyama.lg.jp